

次に、第2の柱

『ふるさとを愛する豊かな心づくり』についてであります。

学校教育につきましては、児童・生徒が確かな学力を身につけ、生涯にわたって学び続けるとともに、それぞれが自分自身の夢を描き、その夢に向かって成長していける「未来志向の教育」に継続して取り組んでまいります。

学力育成につきましては、3か年計画で取り組んできた「しまね学力育成プロジェクト事業」の成果を踏まえ、教員の授業改善、本物に触れる体験学習など、これまで取り組んできたことを基盤として、教育DXの推進や生活習慣の改善などの視点も取り入れた各校の自主性・主体性のある取り組みを支援してまいります。

教育DXの推進につきましては、第2期を迎えるGIGAスクール構想を着実に進めてまいります。児童・生徒用端末の更新やネットワーク環境の充実を図るとともに、インターネットで情報を調べるといった情報活用能力の育成や、児童・生徒の特性に応じた個別最適な学び、オンラインを使った協働的な学びにも繋がるよう、各校の取り組みを支えてまいります。

教育の魅力化につきましては、学校・家庭・行政が手を携え、地域総ぐるみで0歳から18歳までの育ちに関わり、切れ目のない教育活動を推進してまいります。また、本市ならではの教育を、今年度、新たな形で開催した「教育フェスタ」やメディアを通して市民の皆さまに関心を持っていただき、さらに積極的に関わっていただけるよう、様々な形で情報発信を行ってまいります。

教育機会の確保につきましては、障がいのある児童・生徒や外国にルーツを持つ児童・生徒、不登校など学校に馴染めない児童・生徒など、個々の多様性に応じた教育をより強力に推進します。そのための介助員や支援員、日本語指導協力員などの配置はもとより、保護者や児童・生徒の思いや考えに沿った取り組みを進めてま

います。

教職員の働き方改革につきましては、地域の皆さまのご理解のもとで進みつつあります。さらに「統合型校務支援システム」の活用や教員への一人一台端末の配備、部活動指導員の配置などにより、教職員の負担軽減を図ってまいります。

また、各校の実態に即した取り組みを、「学校運営協議会」を通じて、地域や保護者の皆さまのご理解とご協力を得ながら、着実に進めてまいります。

社会教育につきましては、社会教育コーディネーターと各まちづくりセンターとの連携により、組織づくりの支援と、地域活動を支える人材育成に取り組み、地域課題の解決を図ってまいります。

併せて、社会教育施設である国立三瓶青少年交流の家とも連携を図りながら、本市の社会教育の充実を図ってまいります。

図書館につきましては、これまでの利用状況から、温泉津図書館を6月末で閉館することとしました。今後は、移動図書館の実施などにより対応してまいりますので、利用者の皆さまのご理解をお願いいたします。

また、仁摩図書館につきましては、4月から約1か月半、空調改修工事により休館とし、仁摩支所内での臨時図書館の開設を予定しています。利用者の皆さまに極力ご不便をおかけしないよう努めてまいります。

一方で、デジタル化や個人の価値観の多様化、書店の閉店など、図書館を取り巻く状況が変化してきており、時代に即した今後の市立図書館のあり方について検討してまいります。

芸術文化の振興につきましては、その拠点施設である市民会館の適切な維持管理を図りながら、大ホールや生涯学習エリアの利用に対する支援を行うとともに、芸術文化団体等のニーズ把握に努め、活動のサポートに繋げてまいります。

スポーツの振興につきましては、大田市スポーツ協会や大田総合体育館と連携して、市民の皆さまが競技スポーツに限らず、体力づくりを含めたスポーツ全般に親しむ機会を創出してまいります。特に、連携協定を締結している日本体育大学の協力によりスポーツ指導者の育成や競技力の向上に努めてまいります。

2030年に開催が予定されている「**島根かみあり国スポ・全スポ**」につきましては、弓道・空手道・銃剣道の中央競技団体による正規視察を踏まえ、安全・円滑な大会運営に向けて、島根県や各競技団体と十分に連携を図りながら準備を進めてまいります。